

学生および保護者の方へ

2021 年度後期 対面・遠隔授業に関するアンケート結果を受けての本学の取組み

大同大学 学長 神保睦子

2021 年度の後期は、前期に引き続き新型コロナウイルス感染拡大の抑止に尽力しながら、学生の皆さんに少しでも長い時間をキャンパスで過ごしていただくことに重きを置き、教養科目は遠隔または対面方式、実験実習科目をはじめとした学科の科目は原則対面方式で授業を実施しました。学生の皆さんには、引き続き授業運営に協力いただき感謝します。

本学では、併用式授業および遠隔授業の課題と成果を把握すること、またこの先にあるアフターコロナでの授業の在り方について継続して検討するために、以下の期間において後期の遠隔授業等に関するアンケート調査を実施しました。

【専任教員 非常勤講師】 アンケート回答期間 1/31（月）～2/10（木）

【学 生】 アンケート回答期間 1/31（月）～2/10（木）

本学では、今回のアンケート調査の結果を真摯に受け止め、授業の改善に加えて、大学として何ができるかを継続して検討して参ります。以下に、後期のアンケート結果をまとめます。

1. 遠隔授業運営について

<各種 ICT ツールの活用について>

2 年間続く遠隔授業の影響、および対面授業においても ICT ツールを用いた授業運営が増加しつつあることから、今回のアンケートでは 9 割以上の学生が ICT ツールを活用できていると回答しています。

本学では、これまでのアンケートにおいて「遠隔授業における ICT ツールの統一」に関する要望が多かったことを受け、授業担当教員に対して teams への統一を推奨して参りました。その結果、授業運営においては teams の利用が浸透していることが今回のアンケート結果から伺えます。しかしながら、依然として ICT ツールの固定化（特に teams）の要望が数多くみられます。これは授業以外での連絡方法の統一を希望するものであり、引き続き、ポータルサイト（教務システム）と teams の連携について検討を進めていきます。

<遠隔授業における質疑応答や対応について>

これまでのアンケートでは、遠隔授業における課題提出状況の確認について不安に感じるといった意見が多くみられたことから、本学では、課題等提出状況の開示、学生からの質疑応答に対する対応について、授業担当教員にお願いしてきました。その結果、7 割の学生が問題なく質疑を行うことができたと回答しており、改善傾向にあることが伺えます。今後も授業担当教員に学生からの質疑への対応の徹底をお願いしていきます。

<課題の提出状況の確認について>

前期のアンケート結果で、わずかではありますが課題等の提出状況について開示がされなかった授業があるとの回答がありました。本学では、このことを重く受け止め、学生の皆さんの不安を解消すべく、課題提出の状況開示が本学において標準化されるよう、改善を進めてきました。その結果、9割の学生が問題なく確認できたと回答しています。今後も、すべての授業での開示がなされるよう改善を進めます。

新型コロナウイルスの影響で遠隔授業という形式で授業を運営せざるを得なくなって2年が経過し、学生の皆さんの授業運営に対するご協力と、皆さんから寄せられたご意見を真摯に受け止め、改善や工夫を進めていただいた先生方の努力によって、本学の遠隔授業は、ある程度安定して運営できる状況になってきました。今後は、アフターコロナでの授業運営を踏まえ、対面授業を前提としながらも ICT ツールを効果的に活用することにより、ICTを活用したデジタル（オンライン）とフィジカル（対面・実地）の長所を融合し、より質の高い学びを皆さんにご提供できるよう、教授法の改善、授業改革に努めて参ります。

2. キャリア支援について

今回よりアンケートの対象を①就職活動を行っている学部4年生・大学院2年生、②専任教員とし、設問項目については自由記述のみとしました。

①就職活動を行っている学部4年生・大学院2年生

自由記述としたことで、寄せられる要望や意見は多くありませんでしたが、それでも、これまでのアンケート結果と同様に、コロナ禍における就職活動の最も大きな不安要素は、「まわりの状況（友人の状況、企業の採用活動の状況等）がわからない」、ということが挙げられています。大学にて授業を受ける機会が減少することで、キャリアセンターに足を運ぶ機会も減少し、さらには、友人とのコミュニケーションの機会も減少したことから、「まわりの状況がわからない」ことに対して不安を抱く学生が多いことが伺えます。

② 専任教員

学生の就職を直接指導する専任教員から寄せられたのは、「学生同士の交流機会の減少により、周りの就職状況の把握が難しくなり、学生間の就職に対する意識の差が大きくなっている」ということでした。

これは、コロナ禍の就職活動において「まわりの状況がわからない」という学生の不安が、学生個人間の活動意識の差として表れ、その結果、活動開始時期、内定獲得時期の差に影響を与えており、そのことは学生を指導する立場である教員も感じていることが伺えます。

また、就職環境の大きな変化として、就職活動が前倒し（インターンシップが事実上の就職活動開始）となっているという情報が、学生だけでなく、指導教員にも十分に伝わっていないことが、今回のアンケートから見えてきました。

今後は、就職活動の進捗状況に関する情報をはじめ、経済動向に基づく就職環境の変化に関する情報をキャリアセンターにて収集・分析し、それらに対応した本学の就職指導方針を、指導教員および学生に周知できるよう努めていきます。

3. 部活動、委員会活動、その他課外活動の制限について

まん延防止等重点措置適用期間中の課外活動は、学生の皆さんの健康を第一に考え、国や愛知県の新型コロナウイルス感染症への対応ガイドラインに基づき、活動の制限をお願いしてきました。課外活動が制限される中、その活動方法について各団体がそれぞれに工夫をしていただき、改めて感謝いたします。私たちは、皆さんの学生生活をより充実したものにするためには、部活動や委員会活動をはじめとする課外活動が、欠かすことのできないものであると考えています。しかしながら、1年生の皆さんからは、部活動をはじめとする課外活動に加入できなかったという意見も聞かれました。一人でも多くの皆さんに課外活動を通して多くのことを経験していただけるよう、今後も大学として、ウィズコロナの考えのもとで支援を継続して参ります。

また、皆さんに不自由な学生生活をお願いしている中で、困ったことや不安に感じることなど皆さんが抱える悩みについては、個別に対応していきたいと考えています。少しでも不安に感じることなどがあれば、学生室や保健室、学生相談室に相談してください。

4. まとめ

2021年度後期は対面授業と遠隔授業を併用したハイブリッド形態で授業を実施してきましたが、まだまだ、学生の皆さんには制限のある中でのキャンパス生活をお願いしている状況であり、学生のみなさんの努力と協力のうえに、授業が成り立っていると感じています。大学としては、学生の皆さんに少しでも大学生として充実した日々を過ごしていただけるよう、このコロナ禍で得られた経験を活かして、今後も最大限の努力をして、改善に努めていきます。